

【子どもの気持ちを汲んだ解決を】

校長室に入ってくる子どもたちには実にいろいろな表情が見られます。「先生かくれんぼをしているのでちょっと失礼」と言って私の机の下に隠れる子たち。そんな子たちに、「誰も探しにきてくれなかったら遊びにならないね」というと「大丈夫、絶対に来るから」と自信満々の返事。予想通り数分後には鬼がやってきて見事捕獲された子たちでした。折り紙遊びやお絵かき、トランプや将棋、それぞれが思い思いのことをして休み時間を過ごしています。でも、そんなときに、「あれ？今日は一人だな」と思う子も中にはいます。いつもの友だちと一緒にいない子は少し元気がないように感じます。友だちと何かあったのかもしれないなと思いながら様子を見るようにしています。しばらくしてから「どうかしたの？」とは聞きます。それに対しては「あのね・・・」と話し始める子もいますが、あまり話したがらない子もいます。話したくないのであれば、話したくなるのを待てばいい。そんな思いでいると、まわりの様子や本人の表情からだんだんと事情が分かってくる場合があります。気になることがらを少し時間をかけていくつかの面から眺めることができると、その解決方法もいくつか見えてくる場合があります。

学校には、毎日楽しそうにしていながらも、いろいろな悩みや心配を抱えている子どもたちがいます。子どもの様子がいつもと違うことに気づいた保護者は、時間をかけて見守りたいと思いながらも、できるだけ早く子どもに元気を取り戻させたい、早く悩みや心配の原因をつきとめ解決してあげたいと考えることは当然のことです。そこで担任に気になることを伝えたり、相談したりしてくれます。教員も同じようにできるだけ早く子どもが子どもらしく元気に生活できるようになってほしいと思います。しかし、ここで大切なのは、そのときの子ども自身の気持ちです。どのようになることが自分なりの解決と考えているのか、解決するためには誰と向き合う必要があると考えているのか。自分でそれをしようとしているのかいないのか。助けを必要としているのかいないのか。そのようなときに保護者や教員が子どもに対して「あなたはこうしたいのではありませんか！」と言うと、多くの場合子どもは「うん」と頷くかもしれません。でも、この「うん」は必ずしも肯定の意味だけを持つものではないのです。その先に言おうとしていることを聞くことが大切です。場合によっては少し待つことも必要かもしれません。少し時間をかけることで問題に冷静に向き合うことができ解決の方法が増えるかもしれません。こういうのは先送りではなくてよりよい解決方法を探るといことにつながります。

【命を守る】

「お子さんの登下校の様子が心配なので、ときどき駅などで様子を見ていただきたい・しばらくの間登下校の面倒を見ていただきたい」というようなことを学校から言われることがあるかもしれません。学校としても、何か問題がありそうだと思うときは、まず子どもたちから話を聞き、必要と判断した場合は、駅や電車内での様子を見たり、実際に現場で声をかけたりすることもあります。それでも、心配が残る場合は保護者の協力を求めるようにしています。これは、「自宅から栗平駅までの安全については各家庭で責任をもっていただく」という学校と家庭との合意事項でもあり、保護者に関心を持っていただかないといけないことだからです。

ところが、学校からのそういう協力の要請に対して、「どうしてうちの子が？」「うちの子だけですか？」「時間がないので・・・」というようなお返事をいただくことがあります。担任は連絡をしたことについてその詳細を説明しますので協力をしていただかなければなりません。

さて、学校からこのような連絡をする理由は次の二つのことを考えてのことです。一つは子どもの命・安全に関わることであり、さらには他の人の安全にも関わることだからです。もう一つはもちろん危険であることと関連がありますが、著しいマナー違反については学校・家庭の両者がきちんと指導に当たらなければならないからです。児童が毎日ほぼ同じ時刻の電車を利用するのと同じように一般の方々も同じ電車をご利用になられています。昨日も今日も同じようにマナーが悪い子、危険なことをする子を見ているのは、教員でもなく、保護者でもなく、同じ電車に乗り合わせる一般の方たちなのです。その方たちは子どもたちの様子を見ていて、心配でもあり不快でもあるはずですが。私たちが安全指導のための一歩を踏み出さないと状況は何も変わらないでしょう。保護者の皆さんのご協力をお願いするとともに、みんなで子どもたちの命と安全のためにここで気持ちを引き締めていこうではありませんか。

【明日につながる】

子どもたちが帰るとそれぞれの教室では教員たちが掃除や片付けをします。子どもたちも掃除をしますが、それで十分とするのではなく、「明日子どもたちが気持ちよく教室に入ってくるように」という願いを持って行う作業です。子どもたちが帰ったあとの教室には独特の空気が流れていて、その日の出来事がいろいろと思い出されるものです。子どもたちの笑顔、声、様々な場面での子どもたちの姿などです。教員自身が子どもたちにかけて言葉を振り返り、反省することもあります。そうやって一日の子どもたちとの生活を翌日につなげていきます。そんなとき、「そうだ！明日の朝こんな話をしよう。こういうことを伝えよう」と思うことも多いのです。朝のホームルームの大切さは言うまでもありませんが、担任・副担任は子どもたちにどんな話をしようかと考えることが大事です。子どもたちが少しでも前向きな気持ちになって一日の活動ができるようにとの願いを持ちながら朝を迎える学校です。